

## 外部団体と連携した防災教育プロジェクト

### 防災サバイバルキャンプ 1泊2日のわくわく防災訓練

地域の施設や防災公園を会場として、1泊2日のサバイバルキャンプを開催しました

ここでは、数回実施したサバイバルキャンプをまとめ、どのような体験コーナーを実施したかを中心に紹介します。

#### ■協力団体

NPO法人コドモ・ワカモノまちing

#### ■目的

- ・自分と家族を守る防災について、楽しく体験する。
- ・地域で顔が分かる関係をつくる。
- ・地震の発生後に何か起きるかを理解し、その時に向けてどのような備えが必要かについて考える。話し合う。
- ・災害が起きたときに備えて、地域でどのような準備がされているか、役立つ資源があるかを知る。

#### ■内容（進行例）

★は、ダウンロード資料あり

1日目	内容例<指導者等>
集合	
はじめの時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催者挨拶と日程説明</li> <li>・スタッフ紹介</li> <li>・班分け、班ごとに自己紹介・ニックネーム紹介</li> </ul>
体験の時間	<p><b>屋外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災公園の説明&lt;行政&gt;</li> <li>・マンホールトイレ設置&lt;行政&gt;</li> <li>・防災倉庫見学&lt;行政、町内会、消防団等&gt;</li> <li>・サバイバルクッキング     ビニール袋炊飯、豚汁</li> <li>・かまどベンチを使ってみる</li> <li>・火おこし体験</li> <li>・救助・救出体験、毛布担架搬送 ★</li> <li>・防災体操、防災ジャンケン</li> <li>・防災クイズ（紙芝居形式で作成）</li> <li>・自分と家族を守る防災術</li> <li>・新聞紙で紙食器づくり ★</li> <li>・資源調達まち探検     グループごとに、まちの中から段ボールや就寝に役立つものを探してくる。</li> </ul>



	<p>全員が戻ってきたら気づいたことを共有する。</p> <p><b>室内</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救助・救出体験、毛布担架搬送 ★</li> <li>・新聞紙で紙食器づくり ★</li> <li>・暗闇体験 ★</li> <li>・防災セミナー</li> <li>・被災地でのボランティア活動報告</li> </ul>	
避難所シミュレーション	<p>班で分担して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就寝スペースづくり</li> </ul> <p>まちで探してきた段ボールの他に、銀マット等を用意し、施設内にある机やイスも利用してつくりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレづくり (後述)</li> </ul>	
夕食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常食（アルファ化米や缶詰）体験</li> <li>・空き缶炊飯</li> </ul> <p>1泊2日分として、一人当たり2リットルの水を用意。作ったものは新聞紙で作った食器を使い、分けながら食べました。</p>	
防災セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内でこれまでの災害の映像を見ながら、今の東京でどのようなことが起きるか考える。</li> <li>・団体の被災地支援ボランティア活動の報告</li> </ul>	
交流会	子供は就寝、大人の希望者での交流会の会場を別に設ける。	
就寝		

2日目	
ラジオ体操	防災体操でも
朝食	パンの缶詰など、火を使わないで食べることができる非常食を体験
解散	8:00に解散

## 実施にあたって、工夫したこと、実施してみて分かったこと

### 1 防災公園で実施

- ◎かまどベンチを使う、マンホールトイレの設置体験ができる。
- ◎災害発生後に、防災公園がどのような状況になるか、想定しやすい。
- ◎行政や消防団、町内会の方にその場で説明してもらうことができる。
- ◎地域の方が自由に見学できる、参加できる。



## 2 子供たちと地域探検

- ◎地域の商店街の酒屋で、東日本大震災時の店内の状況や、対策として棚に横木やチェーンを渡したことを話してもらう。
- ◎防火水槽やマンホールトイレについて、その場所で説明できたことで、地域に防災のための設備があることを知る。



## 3 サバイバルクッキング

- ◎かまどベンチを実際に試してみる。  
(ねじがなかなか取れなかったり、座る部分をどこに置くか悩んだり。)
- ◎子供たちにマッチの使い方、薪の組み方、火力を保つ方法を教える。
- ◎空き缶コンロ炊飯 (寒い時期だったので、なかなか上手く炊けなかった。)
- ◎ビニール袋炊飯  
(ビニールが鍋に付くと破れるため、新聞紙を間に入れる工夫をした。)

## 4 就寝スペースづくり

- ◎設定のポイント (通路をつくる、配慮の必要な人の場所等) を伝える。  
(段ボールやガムテープを子供たちが大量に使うので、配付数を制限してもよかった。)



## 5 トイレづくり

- ◎断水を想定し、携帯トイレだけを使って1泊してみる。  
トイレは、携帯トイレの使い方を説明し、子供たちが作った。  
団体で用意した物  
携帯トイレ、トイレットペーパー、ゴミ袋、手洗い用の大コンテナ、水、マジック、粘着テープ、消毒用シート、消臭スプレー  
(段ボールは、「まち探検」で集めたものを使う)
- ◎子供たちの工夫
  - ・「使用中」「空き」の札づくり
  - ・使い方を話し合っ決めて、段ボールに書いて入口に貼る。



## 6 参加者募集の方法

- ◎団体HP、フェイスブック
- ◎募集チラシを地域の小学校で配布してもらう
- ◎近隣企業に参加呼び掛け

団体からのメッセージ・・・防災キャンプで目指したもの

**【生き抜く力=①感じる ②つながる力 ③つくる力】**

余白の多いプログラム内容として、参加者が取り巻く環境を感じ、どうすべきかを考えられるよう工夫した。またグループ行動を多くし、協力関係を築いたり足りないものをシェアしたりする機会を多く設け、一人一人が他者とのつながりを意識するキッカケをつくった。

最後に、身の周りのものを工夫して、必要なものを作り出す機会を多く設けた。ダンボールや新聞紙は寝床や防寒着になり、長机は参加者のアイディアで横に倒すことで各自の寝床をさえぎるためのかっこうの衝立となった。

**【地域との連携】**

地域住民や市民団体と企画段階から連携することで、地域の防災力の育成にあたった。

**【防災×遊び】**

遊びという子供にとっての日常を取り入れることで、防災への意識・取組が“もしも”から“いつも”へ変わるきっかけを作った。

支援団体情報（URL 等）

NPO法人コドモ・ワカモノまち i n g      <http://www.k-w-m.jp/>